

▼オピニオン：インフラテクコンから広がる社会 想像力を活かし、挑戦を！

CNCP インフラテクコン実行委員会 サポート委員
細沼 宏之



はじめに

昨年3月末で、36年勤めた石川県庁を定年退職したところに、インフラテクコンの実行委員への推薦を受け、私がお手伝いできることがあればと思い、喜んで活動に参加させていただきました。県職員時代に、京都大学の小林先生のご指導の下、橋梁、舗装、トンネルのアセットマネジメントに携わり、これが礎となって、CAMA試験にパスすることができました。また、技術屋としては未知の領域であった企業会計についても、県用水供給事業を担当し、僅かながら学ぶ機会に恵まれました。

インフラが直面する課題とその解決策

我が国のインフラは、高度成長期に集中的に整備され、建設後30～50年を経過しており、今後、益々老朽化が進みます。また、少子高齢化が進行、財政が悪化し、インフラの維持管理費用が不足します。さらには、インフラメンテナンスを担う技術力を持った人材の不足も大変懸念されるところです。

これに対する解決策として、アセットマネジメントの取り組みが急がれます。ここでアセットとは、組織にとって潜在的または実際に価値のある項目、物または実態を指します。その価値は、異なる組織とそれらのステークホルダーの間で異なり、有形なものでも無形なものでも、また、財務的なものでも非財務的なものでもあり得ます。分かりにくい表現ですが、社会インフラだけでなく、人、パソコンのソフト、資金、また企業の評判といったものなどが該当します。

アセットマネジメントは、組織がその目標を達成するために、アセットからより大きな価値を生み出せるよう、組織の活動を調整することです。アセットからの価値の創出には、コスト、リスク、パフォーマンスの最適なバランスを達成することが求められます。

さて、少々難しくなったので、写真入りの話へ進みます。

クリチバの奇跡から

2010年秋に、私の学生時代に研究室にブラジルのクリチバから留学生として学ばれた友人を訪ねました。約30年ぶりの再会です。

クリチバは、ブラジル南部、イグアスの滝があるパラナ州の州都で、人口は約180万人。1912年に開校のブラジル初の連邦総合大学『パラナ連邦大学』があるなど学園都市としても知られています。

この街は、首都機能に純化して建設されたブラジリアの都市計画の失敗（と言われている）に学び、人を中心とした、快適さを兼ね備えた、公共交通を中心とした都市の発展を掲げた都市計画によって発展してきました。もちろん、当時のレルネル市長のリーダーシップがなければ、成功は無かったことは言うまでもありません。

彼が1971年、第1期として市長に就任し、最初に取り組んだのが、都心の『11月15日通り』から自動車を締め出し、歩行者専用道路『花通り』にすることでした。当時、街の人口が増加し、都心の交通渋滞が顕在



図-1 ブラジル地図

化しつつあり、商店街のアメニティと歩行者の安全を取り戻すことが大きな課題でした。商店街の店主は全員反対。しかし、市長は実際に結果を見てもらえば、理解が得られるとして、冬の週末に、市の職員直営で車道のアスファルト舗装を剥がし、道路を封鎖。さらに花壇をあちこちに配置したのが、『花通り』の由来です。商店街の店主は怒りまくりですが、1ヶ月すると店の売り上げが増加。隣のブロックも自動車を締め出してほしいと市へ要求しました。この成功には、自動車を通そうと舗装をやり直した店主に対し、通りに大きな紙を引いて、お絵かきをした子供達の役割も大きな力となっています。

公共交通のシステム導入にあたっては、地下鉄を導入する財力、技術力が不足したため、バスの専用レーンを設け、乗降時間の短縮のために、バスの出入り口と同じ高さのチューブ型の停留所を整備し、バスの料金はチューブ入口で前払い。3連節の新型バスを導入。バスの運営会社との契約は、運行本数によって市が支払うことにより、本数を確保するなど、信頼性、速度、快適性、頻度を確保しています。

また、クリチバ市内には、イグアス川、バリグイ川などの大きな河川の支流が流れ、度々洪水に見舞われていたため、スラム（ファベイラ）の解消と治水対策のため湿地帯買い上げ、人工池を整備し、公園にしています。

スラムの人達が、ゴミと野菜等の食料を交換できるゴミのデポジットも非常に有名で、クリチバの政策には驚かされることが多くあります。

街が成長するには、しっかりとした将来ビジョンを持つ、それを具現化させるリーダーが必要です。単に印刷工場に任せておいてはなりません。アセットマネジメントを実行するには、組織のトップのリーダーシップが不可欠であり、組織内の役割、責任及び権限を示すこと、そして組織の従業員がそれを認識することも重要です。さらに、忘れてならないのは PDCA の CA を機能させることです。

そろそろ地球の裏側の話から戻って

今回、インフラテックの実行委員会に参加させていただき、高専生の皆さんが、地球の裏側で考えられたことに決して引けを取らない想像力に富んだアイデアを提案されていることに驚きました。市民と意識、責任を共有するアイデアには、行政経験者としては恥ずかしい限りです。ボランティアで参加されていた学生さんが、土木専攻であるにも関わらず、簿記検定に挑戦しておられることにも驚かされました。私の学生時代とは違い、学び、考える課題が随分増えているようです。皆さんが昨年考えられたアイデアをブラッシュアップ、あるいはこれまでの制約を無視して、全く別の視点で考えることもありえるかもしれません。ぜひ、チェックと改善を実行して、2021 年度も挑戦していただくこと、そしてそのアイデアが何らかの形で行政に取り入れられていくように、次のステップに踏み出されることを期待します。



写真-1 花通り



写真-2 連節バスとチューブ型停留所



写真-3 バリグイ公園